

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	演劇	種目	演劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	提案したいいずれか1企画のみ実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	いっばんしゃだんほうじんげきだんこーろ		
	制作団体名	一般社団法人劇団コーロ		
	代表者職・氏名	代表理事・澳利子		団体ウェブサイトURL
				http://kooro.org
	制作団体所在地	〒	546-0012	最寄駅(バス停)
				駒川中野駅
	大阪市東住吉区中野1-4-15			
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)
	制作団体 設立年月	平成23年12月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表理事・澳利子 理事:岡崎久美子 坂口勉 植田智子	社員4名 理事4名・監事1名 ※この法人の目的及び事業に賛同する社員をもつて構成されている。	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	岡崎久美子
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	植田智子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		info@kooro.org		0667040624

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>平成23年12月、「現代を的確に捉え、人々が未来を語る糧となるべき演劇を創造するとともに、演劇の普及・向上に努めることにより、我が国の演劇の発展に寄与すること」を目的として設立。以来、学校公演、おやこ劇場子ども劇場公演、ホール主催公演、大人向け一般公演等、幅広く活動し、現在に至る。</p> <p>●主な活動</p> <p>平成24年7月、「劇団コーロの三びきの子ぶた」が韓国・密陽演劇祭に正式招聘される。</p> <p>平成30年2月、「天満のとらやん」でアジア児童青少年芸術フェスティバル2018に参加。</p> <p>平成31年12月、八尾プリズム演劇助成事業として「眠っているウサギ」を上演。</p> <p>令和3年1月、文化庁“次のにない手を育成する子ども向けコンテンツ制作事業”として石垣市で「いえでででんしゃ」を上演。</p> <p>令和4年11月、文化庁「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」としてピアノ＆ヴァイオリンとのコラボレーションによる「ハンナのかばん」公演の大阪・名古屋連続開催（公演後に動画配信）。</p> <p>2022年7月、文化庁「コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業」として、「眠っているウサギ」伊東公演を実施、さらに新作公演としてミヒヤエル・エンデ原作の「モモ」を上演（9月&12月）。</p> <p>●受賞歴:「眠っているウサギ」が令和5年10月、“こども家庭庁こども家庭審議会推薦児童福祉文化財”に選定される。</p> <p>●その他:「モモ」の公演動画がドイツ・ミヒヤエル・エンデ・資料アーカイブに収録される。</p>	
	学校等における公演実績	<p>※設立の翌年・平成24年度より学校公演実績あり 類計 約400公演（直近）</p> <p>●令和2年度:「天満のとらやん」小学校2公演、子ども劇場おやこ劇場5公演、演劇鑑賞会1公演／「いえでででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場公演1公演、ホール主催1公演／「ハンナのかばん」中学校2公演、高校1公演／「眠っているウサギ」自主1公演</p> <p>●令和3年度:「天満のとらやん」小学校5公演、子ども劇場おやこ劇場1公演／「いえでででんしゃ」子ども劇場おやこ劇場公演2公演</p> <p>●令和4年度:「天満のとらやん」小学校8公演、ホール主催1公演、その他1公演／「ハンナのかばん」中学校2公演、高校1公演／「眠っているウサギ」高校1公演、子ども劇場おやこ劇場2公演</p> <p>●令和5年度:「天満のとらやん」小学校17公演、子ども劇場おやこ劇場1公演／「モモ」小学校1公演、中学校1公演、ホール主催1公演、自主2公演／「ハンナのかばん」中学校2公演／「眠っているウサギ」ホール主催1公演</p> <p>●令和6年度:「天満のとらやん」:小学校14公演、子ども劇場おやこ劇場1公演／「モモ」小学校2公演、子ども劇場おやこ劇場1公演、演劇祭参加2公演、ホール主催公演1公演／「ハンナのかばん」中学校3公演／「眠っているウサギ」高校2公演、ホール主催8公演（全市中学生対象）、自主公演4公演</p>	
	特別支援学校等における公演実績	<p>「天満のとらやん」2校（大阪府立八尾支援学校、大阪市立難波特別支援学校）</p> <p>「ハンナのかばん」2校（主催: 甲賀・湖南市高等学校人権教育連絡協議会）</p>	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/GCDs0QGgt-A	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

あり

【公演団体名 一般社団法人劇団コーロ 】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○	中学生	○			
企画名	舞踊唄芝居「天満のとらやん」						
企画のねらい	「天満のとらやん」は、大阪の民話をもとに、大阪にわか、文楽、狂言等の伝統芸能の様式を現代に活かしてつくった芝居です。作者は、笑いの要素たっぷりの民話の世界にたくして、現代社会が抱える問題を、子どもたちがすんなりと受け止められるよう、ユーモラスな語り口で提示しています。本公演が、現代社会の矛盾を子どもたちが考えるきっかけになればと思います。さらにワークショップや本公演を通して、日頃は触れる機会の少ない伝統芸能への興味・関心を広げていってくれることを願っています。						
演目概要・演目選択理由	【演目概要】 大阪の天満の町に住んだったのんきぼうずの「とらやん」がうなぎを追いかけ、どこいくねん。大根畠から傘屋町、雲の上から竜宮城へ……。大阪の民話をもとにつくられた抱腹絶倒、奇想天外の冒険大旅行話を、出語り太夫の語りや日本の伝統芸能の音色とともにお送りします。(※作品のあらすじ・見どころ等の詳細については、添付の別紙参照のこと。) 【演目選択理由】 ・太夫の語り、和楽器の多彩な音色を通して、子どもたちは想像力を豊かに展開していくことができます。 ・好奇心旺盛でちよつとした失敗にあってもめげず、行く先々でいろいろ学んでいく主人公の姿に、子どもたちは魅せられ共感するでしょう。観劇後には生きる勇気と喜びが湧いてくる芝居となっています。 ・笑いで包みながら農業の後継問題といった現代社会が抱える各場面に散りばめてあり、社会に様々な問題があることを知る機会にもなります。 ・伝統芸能の独特な様式を知る機会となります。						
児童・生徒の参加または体験の形態	■大根引きの場面：舞台上よりとらやんが「音頭とって、ごっつい大根ひっぱるよってに、みんなも声あわせて応援して欲しいねん！」と、応援として大根と一緒に引くよう、子どもたち全員に呼びかけます。子どもたちは、その場で、まず、とらやんが大根を引く動作を真似、その後、お囃子のリズムに合わせてとらやんと一緒に大根引きの演技をします。 ※ワークショップで稽古した場面とは関係なく、毎公演で実施します。 ■ラストの場面（とらやんが旅行を終えて漁師に見送られ天満の町に帰ろうとする場面）：事前のワークショップに参加した子どもたちが法被姿になって、学校にあるリズム楽器（ギロ・タンバリン・カスタネット等）を使って漁師役の出演者たちと共演します。 ■公演後にバックステージツアーも可能です。						
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	20～30名			
			鑑賞人数目安	500名くらいまで			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	舞踊唄芝居「天満のとらやん」 作：かたおかしろう 演出：二世茂山千之丞 演出補：三世茂山千之丞 お囃子指導：藤舎呂浩 美術・衣裳：谷ひろし(人形劇団京芸) 絵・製作：青木貞男						
	公演時間	70	分				
出演者	とらやん：村井祥悟 お嫁ん・乙姫・漁師：梶原くみ 傘屋・雷・漁師：枯木隆志 イナビカリ・侍女・漁師：平井佐智子 老婆・小ガミナリ・新幹線・漁師：越賀はなこ 出語り太夫：魚谷尚代						
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	三世茂山千之丞(演出)：2018年12月、三世千之丞を襲名。語学に堪能で、国内外でバイリンガル狂言公演を行う。新作狂言の作・演出だけでなく、オペラの脚本・演出も手掛けている。2019年第37回京都府文化賞奨励賞受賞。 藤舎呂浩(お囃子指導)：長年にわたり広く三味線音楽囃子方として活躍し、今や、上方舞、地唄、上方唄等の生き字引的存在。後進の育成にも努めている。2020年松尾芸能賞功労賞受賞、2022年文化庁長官表彰。現在、重要無形文化財「長唄」保持者。 澳利子(制作)：2012年12月、一般社団法人劇団、設立者の一人であり、創立以来代表理事を務めている。制作した「眠っているウサギ」が令和5年に“こども家庭庁こども家庭審議会推薦児童福祉文化財”に選定される。令和7年5月、憲法記念日大阪府知事表彰受賞。						
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者：	6	名	運搬	積載量：	2	t
	スタッフ：	2	名		車 長：	4.7	m
合 計：	8	名	台 数：		1	台	

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間			時間程度					
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出					
	9時	9時～11時		13時30分～ 14時40分	0分	15時～16時	16時30分					
	※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。											
本公演 実施可能日数 目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</small>	6月	7月		8月	9月							
	5日	5日		0日	10日							
	10月	11月		12月	1月							
	15日	15日		10日	10日							
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	70日							
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) <small>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載し</small>	 <p>(図1) 体育館舞台上に装置を設置した様子 ※上手側の出語り太夫台及び下手側のお囃子台は仮説舞台です。</p>											
	 <p>(図2) 小学校公演の様子 (幕開きの場面) ※体育館全体を芝居小屋の雰囲気に仕立てたく、客席の両側に幟を立てています。</p>											
	 <p>(図3) 下手側のお囃子台 約20種類の和楽器が並んでいます。</p>			 <p>(図4) 上手側の出語り太夫台</p>								
	<small>※基本的に、体育館の舞台上に装置を設置して上演しますが、体育館に舞台がない(フロアのみ)の場合は、フロアに装置を設置して上演するのも可能です。</small>											
著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名	著作権、ロイヤリティ						
	該当事項がある場合	権利者名	作者の遺族、演出家		許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済						

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

一般社団法人劇団コーロ

】

ワークショップの
ねらい

ワークショップは、全校児童・生徒が参加する1部と、公演当日に舞台に参加する児童・生徒が参加する2部に分かれて実施します。

1部(全員参加)

- ・想像力を使って楽しむ活動を通して、想像力・コミュニケーション力・表現力を育成します。
- ・グループでの創作活動での合意形成の体験を通して、コミュニケーション能力を育成します。
- ・グループでアイデアを出し合う中で発想力を育むと共に自己肯定感や自信を育みます。
- ・実際に節回しをつけて語ってみる活動を通して、本公演への興味や期待を高めてもらいます。伝統芸能を身近に感じるきっかけにもします。

2部(舞台に参加する児童・生徒対象)

表現することの楽しさに加え、呼吸を合わせることの楽しさ、友だちと一緒に舞台を創り上げる喜びを体感してもらいます。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

第1部:全校生徒
第2部:30名程度(1クラス単位)

ワーク
ショ
ップ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

■実施形態:全体で2時間(授業時間単位で)

2部構成としています。

1部:全校児童・生徒／2部:1クラスもしくは1学年(公演当日共演する児童・生徒)

■内容

●第1部(45分～50分):全校児童・生徒対象

①講師紹介・作品紹介

②ウォーミングアップ:簡単なストレッチや発声練習を行ないます。

③後出しじゃんけんゲーム(講師対全校生徒):緊張をほぐし、心と身体を自由にさせます。

④シアターゲーム(エアークンワット等):呼吸を合わせることで、一体感と達成感が生まれます。

※学年単位で行ないます。

⑤・講師による「ちょぼくれ節」の実演と子どもたちによる実演:芝居の中で出語り太夫が語る「ちょぼくれ節」の節回しはどんなものかを、木魚を叩きながら実演してみせます。その後、子どもたちにもその場で両手で膝を叩きながら体験してもらいます。

《節回しする台詞》芝居冒頭の主人公とらやんを紹介する台詞「むかし むかし 大阪の 天満のあたりに のんき坊主のとらやんが お嫁んと二人で住んだった (お囃子方)ソレ住んだった」

※本公演への関心・期待が高まり、伝統芸能を身近に感じるすることができます。

⑥実演の応用編:子どもたちに5W1H(いつ・どこで・だれが・どうした)を作ってもらい、それをちょぼくれ節にののせて、全員で声をあわせて語ってもらいます(グループに分かれて5W1H—いつ・どこで・だれが・どうした—を考えてもらい、それを集めてシャッフルし、一つの文章にしていきます)。

※各グループが考えた5W1Hを合わせて一つの文章にすることで思いもよぬ文章が完成する楽しさを実感できます。

※自由な発想力を柔軟な思考力を高めます。コミュニケーション能力の向上にも繋がります。

●第2部(45分～50分):1クラスもしくは1学年

※出演する際に子どもが持つリズム楽器は、学校にあるものを使います(子どもたちが持っているカスタネット等でも構いません)。

①出演場面の説明をします。

※子どもたちが登場するシーンがどこかイメージしやすいように、「お芝居の最後の方」「とらやんが海へ行って漁師に会うところ」「バックに海の絵が出る」と説明していきます。

②台詞・リズム楽器でのお囃子・踊りの練習をします。

※練習の順番:1・登場場面で実際に歌うことになる歌をうたってみる(1番と2番)→2・足のステップをつけて歌ってみる→3・実際にみんなが出演する場面を、少し前からやってみる(いきなり全部を通さなくて、節目で切りながら)→4・歌や台詞も入れてやってみる(何回かやってみる)→5・質問タイム(わからないところがないかを聞く)→6・順番などを書いた簡単な台本を渡す。

③発表します。



第1部・シアターゲーム(後出しじゃんけん)の様子



第1部・木魚を叩きながら、チョボクレ節を実演（ホワイトボードには台詞を書いている）

※演壇の上に木魚を置いている



第2部

出演場面の説明をしている様子

※ホワイトボードには、出演場面の台詞を書いている

※出演場面の雰囲気がわかるよう、漁師の衣裳を着て説明している

その他ワークショップに関する特記事項等

- 形態:基本的に、子どもたちと対面で行います(1部の後出しじゃんけんや2部の説明は舞台上で行います)。
- 授業開始の挨拶及び終わりの挨拶は、先生の方でもらいます。
- 劇団で準備しておくもの:木魚・締め太鼓等の楽器・漁師の衣裳・法被(公演当日にも子どもたちが着用します)・歌詞を書いたもの3種(1部用:芝居冒頭の台詞/2部用:共演する場面の歌「えらいこっちゃ」の1番と2番)・ちょぼくれ節体験用の大きめの紙(スケッチブックなど)とマジック(グループ分)
- 学校に用意して欲しいもの:ホワイトボード・ホワイトボード用のマーカー・マグネット・リズム楽器(2部用/公演当日に出演する子どもの人数分)

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人劇団コーロ 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。					
会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量		50	A以上
舞台設置面積	間口	7.2	m	奥行	4,5	m
	高さ	4	m			
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応		可
搬入間口の広さ	幅	2	m	高さ	2	m
遮光の要否	遮光要件なし		緞帳の要否		あれば使用する可能性がある	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		20	m以内
搬入車両の種類	小型トラック(軽トラック)		台数	1 台		
搬入車両の大きさ	車幅	1.7	m	車長	4.7	m
備考						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否		
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演					
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

会場簡易図面	(任意)	会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。	
		※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。	

別添

なし

【公演団体名

一般社団法人劇団コーロ

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

- 太夫の語りや和楽器の多彩な音色を通して、想像力を豊かに展開して欲しいです。
- 現代社会が抱える問題を提示している本作品が、現代社会の抱える問題を考えるきっかけになればと思います。
- 本公演をきっかけに、子どもたちが、自分たちが住んでいる地域の民話にも興味を持つようになってもえたらと思います。
- 『我が国や郷土の音楽』に関する学習の充実を図るため、小学校での和楽器の取り扱いが第五学年、第六学年だったのが、平成29年度告示の小学校学習指導要領から、第三学年、第四学年から引き下げられています。「天満のとらやん」では、様々な和楽器に出会うことができます。多種多様な和楽器があることを知ってもらえたらと思っています。
- 日頃、触れる機会のあまりない伝統芸能への関心を広げる機会になればと思っています。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

- 出演する子どもたちだけでなく、他の子どもたちにも公演当日への期待感をふくらませてもらうべく、2部構成としているワークショップの1部では、全校生徒に参加してもらい、作品に関連した内容のワークショップを行います。
- ワークショップの際、民話にはどんなものがあるかも説明します。
- 子どもたちにこそ、“本物”を観てもらいたいとの思いもあり、伝統芸能を現代に活かした様式のこの芝居では、つくるにあたり、伝統芸能に造詣の深い茂山千之丞氏を演出に、藤舎呂浩氏をお囃子指導に招きました。お二人のお力をお借りして、楽しいだけで終わらない、伝統芸能に裏打ちされた品のある舞台が出来上がったと自負しています。
- 生の良さを知ってもらおうと、全編、和楽器の生演奏にしました。なかなか目にすることのない和楽器も使っています。
- 独特な様式や和楽器のことを子どもたちに知ってもらうために、前説(5分)で、様式を説明したり、使用している和楽器を紹介したりしています。

【学校との連絡調整について】

上演校には、メールや電話で担当の先生とご相談しながら、準備を進めます。
ワークショップの際には、学校の現状に即して、臨機応変に対応していきます。
子どもたちがワークショップや本番で使用するリズム楽器は、学校にあるもの(もしくは子どもたちが持っているもの)を使用します。子どもたちが着用する衣裳(法被)は、劇団が人数分、用意します(サイズもそろえています)。
公演に向けては、ワークショップで来校した際に、公演会場となる体育館の下見とともに事前の打ち合わせをきっちり行ないます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

公演当日は、本番前に、出演する子どもたちとリハーサルを行ないます(①出演者と顔合わせ、②軽いウォーミングアップ、③セットの紹介、④本番通りにリハーサル)。そして、出演者が入場の誘導を子どもたちと挨拶を交わしながら行ないます。
希望する学校では、公演終了後に、出演者が送り出しをします。
希望があれば、バックステージツアーも可能です。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

- 和楽器にはどんなものがあるのかやどんな使われ方をしているのか等を調べたりできます。文楽・狂言と普通のお芝居との違いを学ぶこともできます。そういったことを通して、伝統芸能をより深く知ることになります。
- 一大旅行記となっている「天満のとらやん」には、主人公のとらやんが行く先々で出逢う特産や社会的な問題が笑いの中に散りばめられています。
とらやんが辿った場所を地図を広げて確認したり、その地の特産品や文化を調べること等が出来ると考えられます。
例えば、守口で1人で大根引きをしているお婆さんとお出会う場面がありますが、大根は2007年に「なにわの伝統野菜」に制定された守口大根を表しており、この守口大根について調べ直したり、劇中には出てこない他のなにわ伝統野菜を調べるなどの学習が考えられます。
この場面では、農業を継いでくれる若者がいなくて困っているという話がおばあさんから出てきます。後継者問題というのは農業に限らず、社会全体の問題でもあります。
これらの社会問題を児童自ら調べて考える「探究学習」の一助になるとも考えられます。
- これまでに公演した小学校から「学習発表会で『天満のとらやん』を子どもたちでやりたいから脚本を送って欲しい」という連絡が来ることがあります。観る側から演じる側に変わることで、演劇をより身近に感じられ、理解が深まると考えられます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

リンク先	No.2	【公演団体名	一般社団法人劇団コロ	】
演目概要	<p>【あらすじ】 大阪の天満の町に住む“とらやん”は、「まむし井、食べたいわア」というお嫁んのためにうなぎを調理しようとした途端、うなぎに逃げ出されてしまった。 お嫁んに「つかまえてこな、今日の御膳食べさしまへんよってな！」と言われた“とらやん”、うなぎを追いかけて、大根島から傘屋町、雷一家が住む雲の上、果ては海の底の竜宮城まで奇想天外な冒険旅行を続ける……。果たして、とらやんは、うなぎをつかまえることができるのか……。</p> <p>【作品のみどころ】 ●上手側で出語り太夫がちよぼくれ節（木魚をたたきながら節をつけて語る芸）にのって大阪弁で語り、下手側で和楽器の生の演奏が効果音やお囃子として奏でられ、それに合わせて、役者が舞台中央でマイムで演じていくという、大阪にわか、文楽、狂言等の伝統芸能の様式に即った舞台となっています。 ※作者のかたおかしろうは「舞踊唄芝居（ぶようたしはい）」と名づけています。 ●約20種類の和楽器（釣り太鼓・締め太鼓・おけどう・三味線・ほっけ太鼓・拍子木・鉦等）を使います。 ●舞台背景は絵本形式のパネルを3つ設置していて、場面が変わるごとに、絵本をめくるように背景もかわっていきます。絵の変化が目にも美しい上に、その場面を想像する助けとなっています。 ●6名の出演者の内、出語り太夫、主人公のとらや以外の4名が、入れ代わり立ち代わりして様々な登場人物を演じていきます。その変化を観るのも楽しいものとなっています。 ●衣裳は、基本衣裳を始め、日本の伝統芸能を踏襲したデザインとなっています。 ●客席の両側に、幟を立て、体育館全体を芝居小屋の雰囲気に仕立てています。 ●このお芝居の様式や和楽器を身近に感じてもらいたく、芝居の前説で、様式や使用している和楽器の特徴を簡単に説明します。</p> <p>※出語り太夫の語りやお囃子のリズム・音色に導かれて、子どもたちは、想像力を豊かに展開して、雲の上から竜宮城まで“とらやん”と一緒に旅行していくでしょう。</p>			
			<p>←体育館仕様で舞台設営しての稽古の様子（後ろ姿の人物は演出の三世茂山千之丞氏）</p> <p>※舞台背景は、絵本形式のパネルとなっています。場面が変わるごとに、絵本のようにめくっていきます。</p>	
				
	<p>下手側のお囃子陣 (場面ごとにメンバーがかわります)</p>		<p>上手側の出語り太夫 (木魚を叩きながら節をつけて語ります)</p>	